



**Group Mission:** *Engineering for Sustainable Growth of the Global Community*

**Group Vision :** *Global Leading Engineering Partner*

**Group Values:** *Integrity, Creativity, Diversity, Learning, Team*

# 2009年度下期の取り組み方針

2009年11月11日

取締役社長 山田 豊

 東洋エンジニアリング株式会社(TEC)

- 
- A light blue, semi-transparent world map is overlaid on the slide, serving as a background for the table of contents.
1. 市場動向
  2. 当社の課題
  3. 進行中プロジェクトの状況
  4. 営業案件の状況
  5. 注力分野の状況
  6. 中期の売上高・利益見通し
  7. 2009年度通期業績見込

# 1. 市場動向 マーケットの潮流

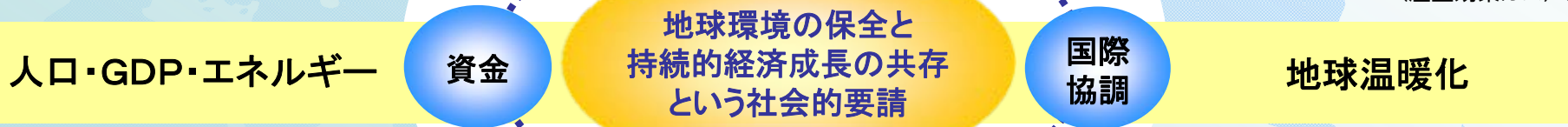
## ◆Upstream投資(資源開発)◆

- ✓ 経済危機後、油価は一定の回復  
資源開発投資は選択的継続
- ✓ 中長期投資へのスタンスは三極化
  - ・積極投資派
  - ・現状維持派
  - ・慎重派

## ◆エネルギー・ポートフォリオ展開への投資◆

- ✓ 石油代替燃料開発投資は様子見  
再生可能エネルギーがブームへ
- ✓ 低炭素社会への転換
  - ⇒ 各国長期的エネルギー政策  
方針如何
  - ⇒ GHG\*1 25%削減 (政府発表)  
(1990年比・2020年まで)

\*1: GHG: Greenhouse Gas(温室効果ガス)の略



## ◆Downstream投資◆

- ✓ 設備投資計画は一部で再開
  - ・地域的には中東偏重
  - ・中・印などの新興経済諸国での  
実需見通しは底堅い
- ✓ 但し、投資判断には慎重な姿勢

## ◆社会インフラ投資◆

- ✓ 世界的な水不足、電力不足など  
懸念は深刻化
- ✓ 成長地域における潜在インフラ  
需要は巨大

## 2. 当社の課題

### ◆ 主要保有プロジェクトは全て順調に進捗

- ⇒ 今期～来期にかけ、大型プロジェクトが次々に完工
- ⇒ 「プロジェクト管理」徹底の継続

### ◆ 有望案件を成約 ⇒ 今期受注目標達成へ

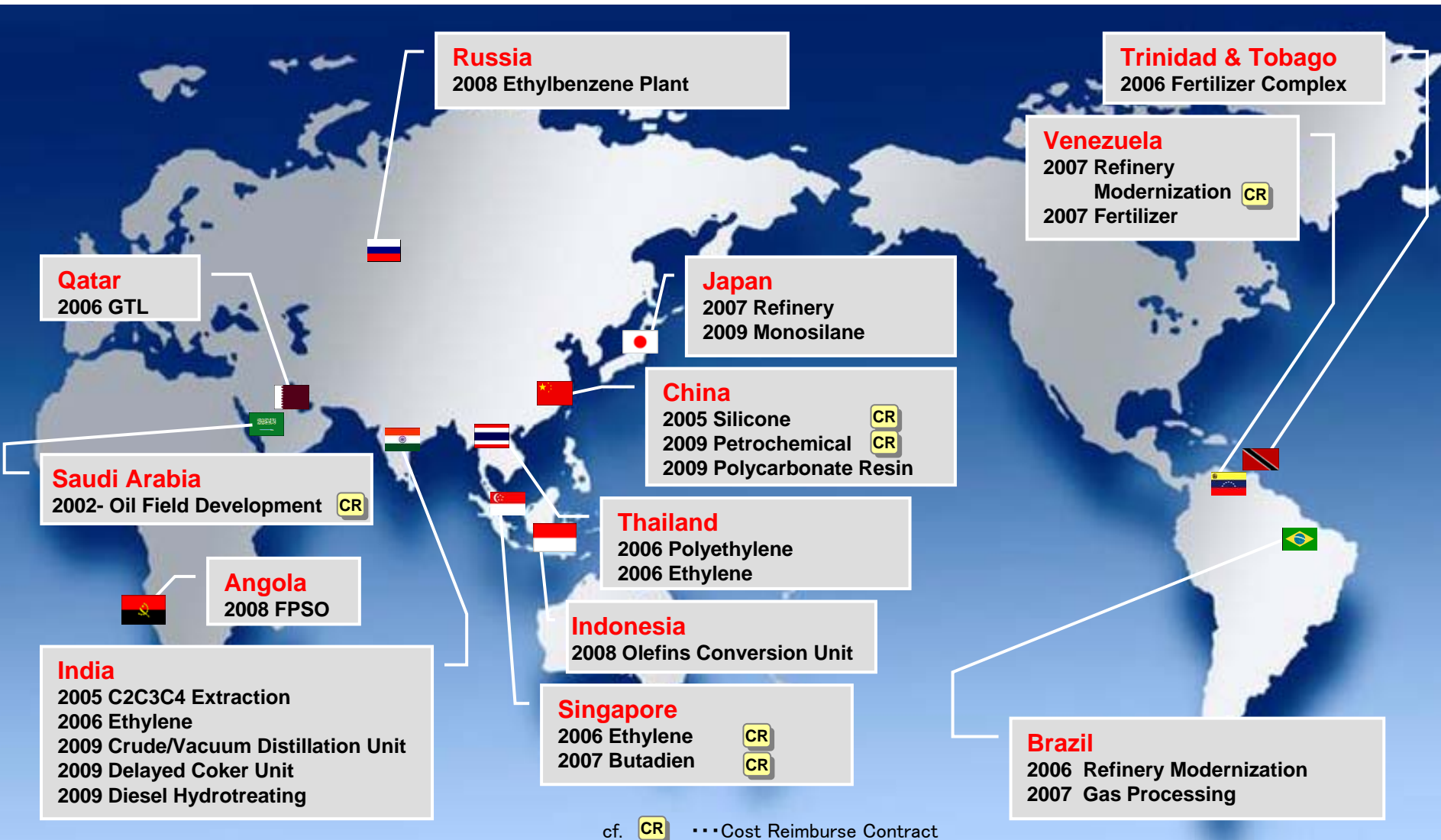
- ⇒ 当社が有利なポジションにある案件を今期中に成約
- ⇒ 来年度以降実現案件のプロポーザルに注力

### ◆ 投資の成果を着実に上げる

- ⇒ 新技術分野(中小型GTL、中規模LNG)の商品化・マーケティングの加速
- ⇒ 社会インフラ案件(水・発電・交通)への積極的な応札

### 3. 進行中プロジェクトの状況 ~ 保有プロジェクトは全て順調に進捗

- ◆ 今期～来期にかけ、大型プロジェクトが次々に完工予定
- ◆ 累計118百万時間のNon-LTI(休業災害無発生時間)を達成(2009年10月末現在)



# 4. 営業案件の状況

## ◆ 当社が有利なポジションにある有望案件を今期中に成約し、目標達成へ

- ⇒ 地域分散を図りながら、今期～来期決着予定の下記主要プロポーザルを展開中
- ⇒ エネルギー、社会インフラ、機能樹脂、環境対応関連分野を中心に多角的な取り組み
- ⇒ 上期連結受注844億円+下期有望案件受注 ⇒ 今期受注目標達成へ



# 5. 注力分野の状況

## ◆ 注力中の3つのテーマについて、着実に成果を上げる

### 【中小型GTL\*1研究開発】

- パイロットプラント建設に着手 (TEC、Velocys社、三井海洋開発の3社共同開発)
- ペトロブラスが建設・検証に全面協力 (資金・建設用地提供、原料・ユーティリティ提供など)

\*1:GTL: Gas to Liquidsの略。石油より可採年数の長い天然ガスから、液体燃料などを作る技術

中小型GTL・パイロットプラント建設予定地



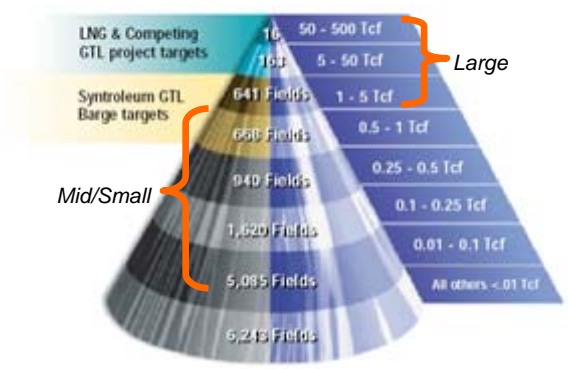
### 【中規模LNG分野】

- Chart社・日立と共同で、今年度中に技術面・経済性の検証を終え、商業化に目処を付ける

### 【社会インフラ分野(水・発電・交通)】

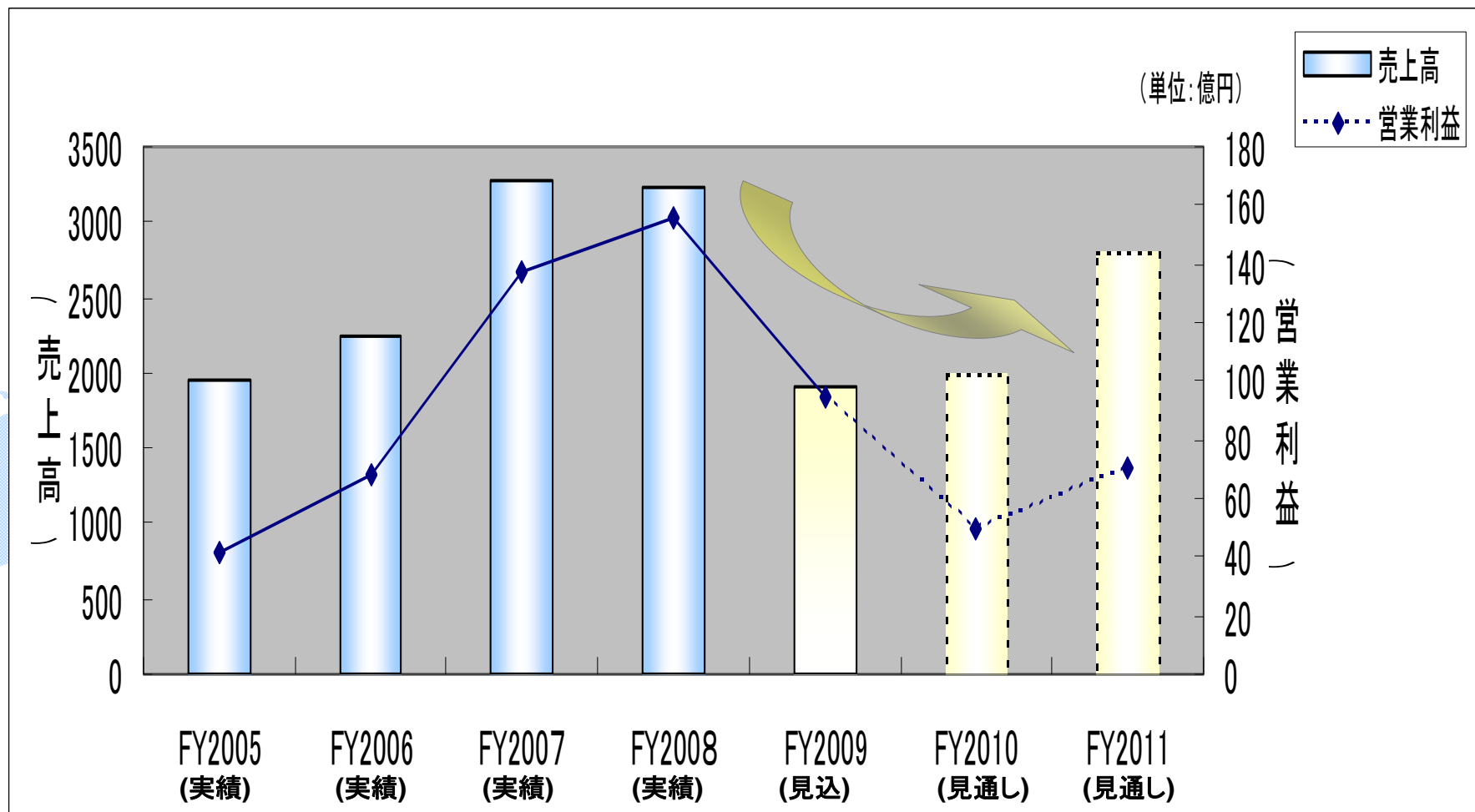
- 数件のプロポーザルに注力中

大規模ガス田／中小ガス田の埋蔵量賦存イメージ (北米を除く)



World's Gas Fields by Size (Outside North America)  
Source: IHS Energy Group, 1998

# 6. 中期の売上高・利益見通し



(注) 2010年度、2011年度見通しについては、確定しているものではありません。

## 7. 2009年度通期業績見込

(単位:億円)

(連結)	2009年3月期 実績		2010年3月期 通期見込	
売上高	3,262	100.0%	1,900	100.0%
売上総利益	347	10.7%	295	15.5%
営業利益	151	4.6%	95	5.0%
経常利益	161	4.9%	95	5.0%
当期純利益	65	2.0%	50	2.6%
配当(単体)	7円	—	5円	—
受注高	1,192	—	2,300	—



【お問い合わせ先】

 **東洋エンジニアリング株式会社**

URL <http://www.toyo-eng.co.jp>

〒275-0024 千葉県習志野市茜浜2-8-1

経営統括本部 IRマネージャー 宮脇邦彦

電話 047-454-1681

本資料に記載されている見通しや業績予想などのうち、歴史的事実でないものは現在入手可能な情報から得た当社の経営陣の判断にもとづき作成しております。実際の業績は、当社の事業領域を取り巻く国内および海外の経済・金融情勢等、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは異なる結果となりうる事をご承知おきください。